

1 事業名 さんベミニ冬まつり

2 必要性

「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」（中央教育審議会答申・平成 19 年 1 月 30 日）によると、「基本的生活習慣の乱れ」「希薄な人間関係」「直接体験の少なさ」などが青少年の諸課題として取り上げられている。また、「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」（国立青少年教育振興機構・平成 22 年 10 月 14 日）によると、「小学校低学年までは友だちや動植物とのかかわり、小学校高学年から中学生までは地域や家族とのかかわりが大切」などの調査結果がでている。

これらを踏まえ、当施設では国立の青少年教育施設として、青少年育成に携わる団体や人材と連携し、青少年の健やかな成長にとって、様々な体験活動を実施することがいかに重要であるかを広く社会や家庭に広めていかなければならない。さらに、そのきっかけづくりとなるような体験活動の機会を提供することも今後より一層求められる。

3 趣 旨

当施設の活動プログラムを提供することを通して、体験活動の楽しさを啓発し、今後の施設利用の促進や体験活動実施の普及を図る。また、家族の絆を深めることや基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行う。併せて法人ボランティアが事業の企画・運営を通してリーダーシップを身に付け、リーダーとして必要な資質の向上を図ることをねらいとする。

4 期 日

平成 25 年 2 月 23 日（土）～2 月 24 日（日）（1 泊 2 日）

5 参加者

- (1) 募集対象・人数 幼児、小学生とその保護者 150 名
- (2) 参加人数 141 名 42 家族（キャンセル 42 名 13 家族）
- (3) 参加者分析 150 名の募集に対して、定員を大幅に超える申し込みがあった。参加者の居住地域の内訳は、下表のとおりである。参加者の本事業への参加のきっかけは、「チラシを見て」という回答が 31 家族あり、最も多かった。また、参加家族 42 家族のうち 13 家族が新規の利用であった。



図 1 チラシ

| 地域 | 家族数 |
|-----|-----|
| 松江市 | 13 |
| 雲南市 | 3 |
| 出雲市 | 19 |
| 浜田市 | 2 |
| 邑智郡 | 1 |
| 大田市 | 1 |
| 広島県 | 2 |
| 福岡県 | 1 |
| 計 | 42 |

表 1 参加者居住地域内訳

| 新規・継続 | 家族数 |
|-------|-----|
| 新規 | 13 |
| 継続 | 29 |
| 計 | 42 |

表 2 参加者施設利用実績

6 講師（研修指導員）

歩くスキー（4名）・・・川島 長利 氏 鈴垣 英晃 氏 宮脇 進 氏 長谷川 久雄 氏
自然観察（2名）・・・坂本 弘治 氏 柳楽 天児 氏

7 参加経費

大人 2,550 円 小学生 2,500 円 幼児 1,880 円 3 歳未満 200 円

※選択プログラムで三瓶自然館サヒメルでの天体観察会に参加する家族は別途料金（大人 240 円・小人無料）が必要となる。

8 事業の内容

(1) 事業の特色

本事業は、冬季における当施設の大イベントとして位置づけている。家族を対象に冬の三瓶を満喫できるよう 3 つ以上のプログラムを設定した。プログラムは選択とし、その家族構成や子どもの年齢等の発達段階に応じた体験を提供できるようになっている。また、本事業では当施設の法人ボランティアがプログラムを企画・運営するという大きな特色がある。初日の夜の選択活動及び 2 日目の午前中の活動について法人ボランティアが中心となり家族の絆を深めるために参加者にプログラムを提供した。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

プログラム構成として、①冬の三瓶を満喫できるプログラム、②家族の絆を深めることのできるプログラムの 2 つをテーマとした。また参加者自らが自分の実施したい活動を選択し、意欲的に活動に取り組めるようにした。

①冬の三瓶を満喫できるプログラムとして、「歩くスキー」、「スノーシュー&かんじき（自然観察）」、「雪像作り」の 3 つを設定した。専門的な知識が必要な「歩くスキー」、「スノーシュー&かんじき（自然観察）」については、講師に指導を依頼し、より本格的な体験を提供できるようにした。

②家族の絆を深めるために、法人ボランティアが企画・運営するプログラムを設定した。意図的に家族の中でコミュニケーションを図れるようなレクリエーションやゲームを行った。

本事業の特色ともいえる法人ボランティアによるプログラム提供については、島根大学及び島根県立大学の学生が、事前に当所で打合せをする機会を設け、2 つのテーマをもとに家族に楽しんでもらえる内容を企画した。施設での内容検討の他に、各大学においても話し合いの機会を設け当日の運営に備えた。

(3) 広報のポイント

広報については本事業のチラシ（図 1）を作成し、近隣（松江市・出雲市・三次市・雲南市・大田市）小学校に教育委員会を通じて 28000 部配付した。また、報道機関には記者クラブを通じてチラシを配布し、広報を依頼した。さらに、昨年本事業に参加した家族に対してもチラシを配付し、参加を呼びかけた。

(4) 日程表

| | | | | | | | | |
|-------------|-------|--------------------------|--------|---|-----------------|---|-------|-------|
| | 11:00 | 11:30 | 12:00 | 13:30 | 16:30 | 19:00 | 21:00 | 23:00 |
| 2/23 (土) | 受付 | 開会式 オリエン テーショ ン | 昼 食 | 選択活動① A. いい汗かこう!歩くスキー B. 冬の自然大発見! スノーシュー&かんじき C. 冬の芸術!雪像づくり | つどい 夕食 入浴 | 選択活動② A. 学生お楽しみ企画 B. 冬のお星さま観察 C. 絵本の読み聞かせ D. 自主活動 | 自由 | 就寝 |

| | | | | |
|-------------|-----------------------|----------------------------------|--------|-------|
| | 6:30 | 9:30 | 12:00 | 13:00 |
| 2/24 (日) | 起床 つどい 清掃 朝食 | 大学生のお兄さん・お姉さんと遊 ぼう!学生ボランティア企画 | 昼 食 | 解散 |

(5) 内容

・選択活動① A「いい汗かこう!歩くスキー」

参加者の年齢やその日の体調、経験の有無などによって、当日グループを作り活動をした。各グループは装備の選択方法や装着方法を職員が指導した後、グループ毎に活動をした。各グループに1名の講師及び2~3名の法人ボランティアを配置した。



・選択活動① B「冬の自然大発見!スノーシュー&かんじき」

全体で装備の選択方法や装着方法を職員より指導した後、コースに出て活動をした。男三瓶山周辺にある中国自然歩道までの往復コースで、2名の講師から三瓶の動植物について解説を聞きながら三瓶の冬の自然をゆっくり味わった。



・選択活動① C「冬の芸術!雪像づくり」

平成24年度は積雪が少なく、プログラムを「雪像づくり」から「そり」に変更して、活動を展開した。全体で滑り方やそりの止め方、注意事項を職員が指導した後、プラスチックそりやスノーレーサー、円盤そりなどを使って思い思いにそりを楽しんだ。



・選択活動② A「学生お楽しみ企画」

参加者を人数が均等になるように 4 つのチームに分けて活動をした。「家族の交流を深めよう」をテーマとし、ジェスチャーゲームや親と子どもに分かれて行う長縄跳びなど多様なレクリエーションゲームを行った。プログラムの運営は法人ボランティアが運営スタッフとグループライダーに分かれて担当をした。



・選択活動② B「冬のお星さま観察」

当施設から徒歩 5 分のところに立地する三瓶自然館サヒメルの天体観察会へ参加した。天文の学芸員から星の解説を聞いたり、天体望遠鏡を使って星を観察したり冬の澄んだ空気の中、家族で星を眺めた。

・選択活動② C「絵本の読み聞かせ」

職員と法人ボランティアで読み聞かせを行った。大型絵本、ブラックライトを使用するブラックシアターやエプロンシアターなど多様な読み聞かせ道具を使って活動を行った。また参加者がより楽しめるように簡単な動きのある絵本も取り入れた。



・「大学生のお兄さん・お姉さんと遊ぼう！学生ボランティア企画」

平成 24 年度は、積雪が少なかったため、室内でゲームを行った。参加者全員を対象に法人ボランティアが考案したプログラムを実施した。全体で音楽に併せて体ほぐし運動等をした後、家族間の絆が深まることをねらいとした 7 つのブース（おたまでリレー、的当て、ボーリングなど）を設定した。参加者が自由にブースを選択して回れるよう地図を作成した。



(6) 運営のポイント

参加者数 141 名（42 家族）と多く、新規利用の家族も 13 家族と多かったため受付や移動、集合に時間を要したり、混雑したりすることが予想された。そのため、次のような工夫を行った。

- 活動時間を多く確保するために、開会式やオリエンテーションを午前 11 時 30 分にして午後からはすぐに活動ができるようにプログラム構成をした。
- 参加者に活動時間を意識して行動してもらうために、夕べのつどい後と朝のつどい後に視覚的にわかりやすいように今後の流れを紙に大きく表示し、アナウンスをした。
- 参加者が活動場所を把握できるように、所内各所に案内掲示をするとともに、法人ボランティアが案内をした。
- 参加者の集合状況を把握するために、あらかじめ家族毎にマットを準備し、前列からつめて座ってもらうように指示をした。
- 自家用車で来所する参加者が多く、駐車場が混雑することが予想されたため、駐車場に職員を 1 名配置し、誘導に当たった。
- 本事業の初日の午後の選択活動では 31 名の法人ボランティアに指導補助を依頼し、参加者の安全管理に努めてもらった。また、夜の活動と 2 日目は企画、運営をすべて任せることで彼らにとっても学習の場となるように配慮した。

(7) 安全管理のポイント

- 屋外で実施する活動については、事前に活動場所を踏査し、安全確認を行った。
- 屋外での活動については、緊急時の連絡体制を整え、無線で細かな連絡を入れるよう努めた。
- 選択プログラム「冬のお星さま観察」で三瓶自然館サヒメルに移動する際に、道に迷わないよう、職員とボランティアで道案内、誘導を行った。

(8) アンケートの満足度・主な記述

満足度（参加者 42 家族中）

| | | | |
|------|---------------|------|--------------|
| 満足 | 38 家族 (90.4%) | やや満足 | 4 家族 (10.5%) |
| やや不満 | 0 家族 (0.0%) | 不満 | 0 家族 (0.0%) |

- ・初参加だったのですべて楽しかったです!!
- ・子どもたちが喜び、うれしかった。
- ・子どもが 3 歳、5 歳なので心配しましたが、「次は何？どこに集まるの？」などと集団行動に慣れ、きびきびしていました。
- ・学生さんにたくさん遊んでもらえてよかった。
- ・開始時刻のルーズさが楽しみを半減させる。
- ・小学校から長男がチラシを持って帰っていたのでこの事業を知りました。大田市に住んでいてこんな素晴らしいイベントがあるなんて知らなかったのも、また機会があれば家族全員で参加したいです。
- ・今回は父親がいなくて大丈夫か心配しましたが、ボランティアの人がすぐに声をかけてくれて、助かりました。2 日目は雪の中で遊ぶことができず、残念がっていましたが、室内の企画もとても楽しく子どもたちも喜んでいました。また来年も参加します。
- ・スキー場のスキーは小さい子どもを連れていくにはなかなか参加しにくい。今回は、姉たちに歩くスキーを体験させたくて参加しました。大人の手の足りないところ、学生さんが子どもたちを見てくださり本当にありがとうございました。

- ・よく参加させていただいています。子どもたちにいろいろな体験をさせたく参加しています。毎回とても楽しみにしています。
- ・学生ボランティアさんは、準備がとても大変だったと思います。また当日も笑顔のあいさつや、応対がとても気持ちよく、楽しい時間が過ごせました。ありがとうございました。
- ・家族ゆっくり過ごせましたが、もっとファミリー同士の交流があってもいいかなと思いました。
- ・歩くスキーに参加しました。練習時間が長すぎて（人数の関係でしょうが）林間をあまり歩けず残念でした。

9 成果と今後の課題

<成果>

- 法人ボランティアが企画・運営するプログラムについては、企画の話し合いの段階から職員が関わり、安全管理、進行について確認しておくことで、当日スムーズに活動を進めることができた。
- 31名の法人ボランティアが事業に参加したことで、手厚い支援が可能となった。また、プログラムの一部を企画から運営まですべて任せることで、学生にとっても大きな学びの場となった。
- 法人ボランティアは、参加者の中に自然にとけこみ、参加者同士をつなげる役割を担い、家族同士や他家族との交流も促進できた。

<課題>

- 参加対象が家族のため、急なキャンセルが多いことが予想される。キャンセル待ちの体制を作ることを検討したい。
- 法人ボランティアに関しては、企画運営について経験豊富な島根大学生が試験期間のため2～3名しか企画の段階から参加ができなかった。そのため島根県立大学生が一から企画に取り組んだことによって今まで培ったノウハウを十分活かすことができなかった。企画の段階で相当の時間を要したが今までとは違った新しい発想で企画ができたことは成果としたい。今後、島根県立大学生にも当所の事業に継続的に参加し、企画運営のノウハウを学び、今後の活動に役立ててほしい。

10 普及計画・普及実績

島根県内の報道機関に広報した結果、地方新聞2社とケーブルテレビ1社が事業の募集・報告を記事として掲載、報道し、参加者の利用や事業内容の周知につながった。またホームページ上に要項や事業の様子などを掲載することで事業内容を社会に広く発信することができた。

(担当 渡邊 絵里子)